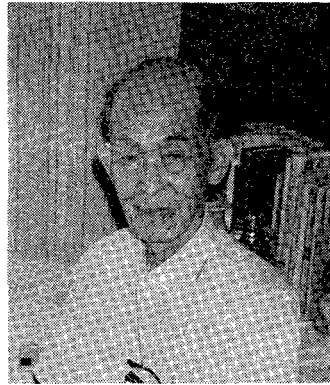


## 野間三郎先生を悼む

野間三郎先生は、平成3年12月4日午後2時頃に亡くられました。享年79歳でした。お葬式は相模原市の西善寺で6日午後1時から営まれ、静かに他界へ逝かれました。当日、京都から林宏先生と御一緒し、野間先生の安らかなお顔にそっと菊の花を添えることができました。お話によると、奥様が退院されて数日後、安堵されたのか急に弱られ、食事が通らなくなり、死因は老衰とのことでした。

先生は京都帝国大学文学部史学科地理学専攻課程を御卒業後、京都大学・立命館大学・金沢大学・東京都立大学・福井大学・創価大学と長い間、地理学とくにわが国における地理学史の研究・発展にきわめて大きな業績をあげられましたことは申すまでもないことですし、また大学教育にも御熱心で多大に貢献されましたことは、皆様がすでによく御存知のことと思います。私は不肖の弟子ですが、ただ先生をお慕いする者として、失礼を顧みず、紙碑には不向きかも知れませんが、お偲びしたいと思います。

先生とのお近付きは、立命館大学大学院の1期生としてお世話になったことに始まります。地理学史の受講はもちろん、東北・九州への教室旅行やフンボルト・リッター100年祭に上京したり、林先生のお力添えによりお宅へお邪魔したことなどが思い出されます。殊に、民家を研究テーマにしていた者として、藤田元春先生を立命館に御招聘下さったことは大きな喜びでした。藤田先生を中心に「民家友の会」を創られ、見学会を催したり、朝日新聞社から『近畿の民家』の写真ブックを出したり、そんなお手伝いをさせていただきました。ただ藤田先生が亡くなられ、野間先生が金沢大学へ転勤されてからは続けることができなかったことは残念でした。個人的なことになりますが、論文の原稿を見ていただき、バツバツと不用な部分を削られ、要点をまとめて記述することを教えていただきました。教えていただいたといえば「朝鮮五目並べ」もありました。先生のお酒好きは有名で、少しハラハラしたこともありました。私はこの方は全くの不肖ですが、先生



も時々楽しんでおられた篆刻をいつの間にか我流ながらするようになりました。

金沢へ行かれてからは、一度お伺いしたことがありましたが、学会等で時たまお会いするか、あとは御挨拶のお便りをするだけでした。昨年末部屋を整理していた折、当時先生からいただいた葉書が出てきたのも、やはり何かの御縁かと思っています。

いつも心に懸りながらお訪ねできなかった相模原のお宅へ、やっとお邪魔したのは今年の8月1日でした。私用で上京した機会に、淵野辺駅前の交番で尋ね、予告もせず全く突然にお伺いしました。すでに創価大学も辞められ、都立大学の研究会「グレコ会」に出席されるのを楽しみにされておられたようですが、4月頃でしたか散歩に出られた折、蹴つまづかれ、以後家に籠りがちになられたそうで、突然にお訪ねしたのにかかわらず大変喜んで下さいました。

もうあのヒョウヒョウとしたお姿に接することはできず、言葉少なではあるが温かく優しさのあるお話もうかがえなくなりました。どうか安らかに眠り下さい。

安らかな 師のほほを埋め そっと菊  
師弔う 相模が原は 枯れ枯れて

(早瀬哲恒)